録音（昭和三十四年九月十五日）

蓮如上人は、もろもろも雑行雑修自力の心をふり捨ててと、領解文に、信仰に入る順路を教えられた。

念仏に向いていたら、十八願と思っていたら間違い。苦が抜けたら報謝の行と変わる。聖人は他の善根を励めとは一遍もおっしゃった事は無い、唯仏恩の深重に眼を覚ませと仰っている。やっているから捨てよと言われる。知らず知らずのうちにやっているから捨てよと言われた。

方便から真実へ、真仮の分斉、信前信後の水際を聞きなさい

念仏成仏これ真宗万行諸善これ仮門権実真仮をわかずして自然の浄土をえぞしらぬ

要門、真門、まだ門ですから奥にお入りください、弘い世界、弘願

定規を頭に入れて、どこに腰をかけているか考えなさい

八万の法蔵、聖道門の自力から浄土門の他力に引き込まねばならない

華厳経（奈良の大仏）、難しい、阿含、方等、般若、四十余年未顕真実、根機を調えて、法華経を説かれた、その最中に韋提希夫人の家庭の悲劇、法華経をやめて王舎城で、観経をとかれる。これは、第十九願、修諸功徳、その中に万行随一の念仏がかくれている、諸善万行と肩並べた念仏。何でも根機にかなった善をしなさい。

諸経所讃多在弥陀、どの自力の修行にも念仏が入っている

源信和尚、利智精進の人ならできるが、予がごとき頑魯のものは念仏しかない

横川の源信僧都の往生要集の講義を、源空聖人の先生の叡空上人がしておられた。

別相観、総相観、雑略観、極略観、ができなければ念仏をしなさい、叡空上人はこの念仏は仏を念ずる観念といわれたので、源空上人は称名念仏、下品の人間は観念はできないから、仏を念ずるのではなく、称名念仏であるとおっしゃった。

破門されて、吉水の禅房にこもられて、選択集をお書きになられた。

叡空上人は臨終に観念ができず、源空上人を呼ばれて、私より先に法の自然を弁えていたのか、これより後は法然と名乗れといわれた。

観経、韋提希夫人が愚痴をこぼした時、愚痴をこぼす資格があるか、

浄土を見たければ定善をせよ、心を静めよと言われるが、心の中では阿闍世を殺している、観念の出来なければ、念仏を称えるよりない